

外国人が安心して日本の医療を受けるためにできること

香川県立観音寺第一高等学校 1年 村上華音

今回、「グローバル社会」について考えるにあたり、「グローバル社会」とは何を意味するのかを調べた。『グローバル社会とは、一般的には国や地域といった垣根を越えて世界的に資本（お金・物など）や人材、情報といったもののやり取りがされることの社会のことを指す。』

私は将来、医療関係の仕事に就きたいと考えているので、医療に関わる「グローバル社会」について考えたいと思う。

先日、私が近所の病院へ行った際、アジア系の外国人の方が、付き添いの人と受診されているのを見かけた。外国人の方はしんどそうな様子だったが、自分の症状を伝えるのに苦労されていた。日本は2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、訪日する外国人もますます増えてくると思う。何が医療を受けにくくしているのか？またそれに対し、私は何をし何をすべきかを考えたい。

～現状～

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会などに関する閣議会議（H26年9月30日）（抜粋）による「大会開催基本計画の策定など円滑な準備に向けて国の対応が期待される事項」として、

○医療機関における外国人患者受入環境整備

外国人患者が安全・安心に日本の医療サービスを受けられるよう、平成26年度予算により医療通訳が配置された拠点病院の整備を開始。外国人患者受け入れ医療機関の認定制度の活用と併せ、外国人患者受入体制を充実。ということが、期待される。

現在（平成26年末法務省統計より）の在留外国人の人数は、約210万人である。また、その内訳（国籍・地域別）は1位が中国で31%、2位が韓国・朝鮮で24%、3位がフィリピンで10%である。

訪日外国人の総数（平成26年 日本政府観光局データより）は、1,341万人である。中国、韓国、台湾からの訪問者数は著しく上昇している。このことから、東アジアからの人々が増加しているということが分かった。

年間外国人受入れ実績（日本医療機能評価機構の認定病院1,430病院のうち、有効回答766のうち実績があると答えた病院）より、在留外国人の外来の受入れ実績が10名以内の施設が226病院、入院の受入れ実績も10名以内の施設が293病院で最も多かった。

このことより、一般的に病院の外国人に対する受入れは悪いと思う。そこで、どのようにしたら病院に受入れられるか考えた。

・なぜ、外国人だと受入れにくいのか？

外国人患者受入れの病院体制について、以下の体制を整備していますか？（日本医療機能評価機構の認定病院 1,430 病院のうち、有効回答 766）

このことより多くの問題があるが、共通するのは、言葉の壁があるので、受入れられにくいことだと思った。

質 問	全国
外国人患者の来院状況の実績を把握する方法がある	18%
外国人患者に対応する担当者・担当部署を設置している	11%
通訳を提供できる体制がある	35%
外国人患者に配慮した院内案内図や案内表示を整備している	16%
外国人患者が理解可能な言語で、治療説明書や同意書を作成している	16%
診療に先立って概算費用を通知する方法が有る	27%
患者の宗教・習慣の違いを考慮した対応方法がある	30%

先ほど～現状～で述べた、○医療機関における外国人患者受入環境整備の中に『医療通訳』という言葉が出てきた。

『医療通訳』とは、“外国人が母国語で日本の医療サービスを受けられるようにサポートする仕事”とある。

調べてみると 2017 年時点、国内で『医療通訳』の技能、レベルの「見える化」のシステムはない。しかし、ここ数年進められてはいる。

このことについて、私は在留外国人 220 万人、訪日外国人年間 2,000 万人超のグローバル社会の今、どうしてこんなにも大切な役割を果たす『医療通訳』という仕事が広まっていないのか不思議に思った。

現在進められている、『医療通訳』に資格や認定がなぜ必要か？

一定レベルの知識、技術を明らかにすることにより、

- ① 患者さんに「安全、安心の医療」を提供するため
- ② 医療チームがお互いの技能、立場を認め、尊重し、よい医療チームを作るため（国際臨床医学会 2017 年 11 月）

とある。ここで、『医療通訳』の難しさを感じた。言葉だけでなく医療の技術も必要になる。

私は夏休みに、実際の病院で看護体験に参加した。病院では、お医者さん、看護師さん、介護士さん、薬剤師さん、栄養士さん、理学療法士さん作業療法士さんなどたくさんの職種の方がいた。それぞれの専門性を生かし働いていた。私が体験した看護師の仕事について

て、必要だと分かったことは、

- ①医療の知識
- ②患者さんやスタッフとの迅速なコミュニケーション力
- ③責任感や使命感
- ④周囲をみて気づく力
- ⑤笑顔

このようなことを、グローバル化が進む医療の中で、スムーズに行うことは、本当に難しいと思う。なぜなら、日本人に日本語で伝えるのも難しく誤解されることが多いのに、誤解が許されない医療では特に困難だと思ったからだ。

近年、介護士不足により、外国から訪日し日本の病院に勤める方もいるとニュースで見ることがある。日本語はある程度勉強してから来ているが、日本は地域により方言もあり、年齢により喋り言葉に違いがあるので、コミュニケーションは難しいと想像できる。

日本人の私たち側も外国人の方の言葉を習得することでより良い医療が提供できると思う。

～まとめ～

近年、訪日外国人数は増えてきている。日本でも医療のグローバル化は必要となっているのに、認定病院でさえ、外国人に対する受入れは悪い。この原因は、設備問題・言葉・宗教の違いなどがある。

特に言葉の問題は重要なため、『医療通訳』という仕事が進められているが、私が思うには、医療従事者自身が英語や中国語を話せることが一番の近道だと思う。しかし、言葉を単に話すことはAIにでもできる時代がくると思う。だから、言葉に加えて今後、

- ・外国へ行き現地の人と触れ合うことで、文化や習慣・歴史を学び、相手を知る
- ・日本の文化や歴史を学び、現地の人や訪日外国人に伝える
- ・外国語や医療の知識を学ぶ
- ・話し合いの場で積極的に自分の考えを言い、周囲の意見も聞くことで、コミュニケーション力を身につける

ことに取り組んでいきたい。

今現在、私にできること

- ・広く物事を捉えたり、努力する力を身につけるために今高校で学んでいる科目を目的をもって勉強する
- ・現在行っている茶道部の活動で、作法を学び、茶道を通じて日本の文化を伝えられるようにしたい

まずは、2020年東京オリンピック・パラリンピックに来られる外国人の方が、日本で

安心して医療が受けられ、過ごせる手伝いができるように私も日々、努力していきたい。

■参考文献

出典：厚生労働省 厚生労働省における医療の国際展開に関する取り組み
厚生労働省医政局総務課 医療国際展開推進室長 三宅邦明
Ww2.med.osaka-u.ac.jp

出典：国際臨床医学会 2017年11月 医療通訳者の認定制度がなぜ必要か？
Kokusairinshouigaku.jp

出典：医療通訳になるには？
<http://oshigoto.com/medicai-interpreting>